

# TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

**Vol.83**

配信日：2025年2月6日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

医療タイムス 記事紹介

“ デイアライン ”

相談役・理事 北村 豊 先生

当会の相談役・理事 北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介します。

記事の内容につきましては、別紙<sup>\*</sup>(Emailの場合:別添)(Faxの場合:本状含め2枚目)の通りでございます。

※ 別紙 出展元: 医療タイムス 2025年(令和7年)1月20日 発行

## 事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただきます(施設長より)。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しく願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承願います。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: info@tpdimplant.com

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

## ディアライオン

北村豊

皆さんは「ディアライオン」ってご存知でしょうか？

親しい（ディア）人と、そうでない人との心の中での境界線……ではないんですよ。

ホンモノのディアライオンが広範囲にはつきりと見られるのは、奈良公園である、というヒントを差し上げて、ほとんどの方々は私の故郷の奈良への修学旅行などで日本の古都である奈良公園に行かれておられても、知っている方々は少ないのではないのでしょうか？

ディアラインとは、木の約2mより下では木々の枝や葉が無く、そのため高さ2mより下の眺めは、奈良公園には木々が沢山育っているわりには見通しが良く、その葉の有る・無しの上下的な境界をつらねた線をそのように呼び、使用されるこ

とは少ないが日本語ではあえて「鹿摂食線」とも言われています。

ディアラインの下には、ワラビ・ナンキンハゼ・ヤブニツケイなどが生えているが、これらはシカの好みに合わないらしく、生き残っています。ディアラインより下方でもよく繁っている木としては、アセビが奈良公園には多いのですが、「馬酔木」と書くように数種類の毒成分を含んでいるため、シカには見向きもされず健やかに成長していて、ディアラインを越えて3m以上の高さのアセビも珍しくありません。

奈良のシカは1300年以上前から、今の奈良公園にすでに住んでいる野生のシカであることは、遺伝情報からも解析されています。

高木らの研究（アメリカ哺乳乳学会誌，104

(2), 2023)によれば、奈良県内と近県のシカの遺伝的に比較的安定なゲノム中に存在するSRマーカーのデータを解析すると、紀伊半島のニホンジカは奈良公園、東部、西部の大きく3つの遺伝的分集団に分けられ、分岐年代推定を行ったところ約1300年前に祖先の集団から奈良公園集団が分岐したことが分かったそうであります。

その時代は、日本では約1300年前に平城京が出来た頃で、その古都平城京を守護する神々を祀拝するために、西暦767年に藤原氏の氏社として春日大社が創建されました。春日大社は全国に3000ともいわれる春日神社の総本社であります。奈良の春日大社が創建された時に茨城県鹿島神宮から勧進（神を分霊して祀ること）することになり、神は白鹿（酒の名前ではありません！）に乗って来られたのが奈良のシカの由来と

されています。

そのような“歴史”ではない言い伝えもありますが、1300年前にはすでに旧奈良市圏内に住んで居た野生のシカは、神鹿として長年手厚く守られて奈良の住民と共生してきたことにより、「祖先のニホンジカから分岐し、独自の遺伝子型保持は、手厚い保護の証」と言えます。シカは奈良市民にとっては特別な存在となっていて、日本中の多くの地域で増えすぎてヒトから通告もなく勝手に害獣というジャンルに入れられたシカとは一線を画しています。

シカが増加している信州でもちよつとした山に五感を働かせて注意深く入っていくと、小さなディアラインや獣道がよく見かけられます。

奈良のシカは特別ですが、先住民（シカ）の生活圏内に後から入り込んだ「文明という檻の中」にいる五感の退化したホモ・サピエンス（ヒト）という動物にとっては、

ディアラインがディア（親愛なる）ディアライオンと呼べる日が来ることは淋しいことながら、この先も決してないのでしよう。たとえ送り狼が増えたとしても！

さて、筆を置く前にホモ・サピエンス（ラテン語）の意味をご存知でしょうか？ 「賢明な人」という意味なんです。皮肉なものです。世界中で戦争や紛争が増加しつつある昨今なのに……。

（信州口腔外科インプラントセンター所長）

